

寺子屋朝日

「やらなければ」から「やりたい！」へ

子供たちが主体的に取り組む防災教育とは？

防災学習アドバイザー・コラボレーター 諏訪清二

防災教育学会会長

客員教授 兵庫県立大学
(防災教育研究センター・大学院減災復興政策研究科)

非常勤講師 大阪国際大学短期大学部
神戸学院大学現代社会学部社会防災学科
神戸女子大学
桃山学院教育大学

と き : 2023年6月25日 (日)

客員研究員 セーフティマネジメント研究センター



防災学習アドバイザー・コラボレーター 防災教育学会会長

客員教授 兵庫県立大学
(防災教育研究センター・大学院減災復興政策研究科)

非常勤講師 大阪国際大学短期大学部
神戸学院大学現代社会学部社会防災学科
神戸女子大学
桃山学院教育大学

客員研究員 セーフティマネジメント研究センター

1960年 兵庫県明石市生まれ

1982年 兵庫県高等学校教員 (英語)

1994年 兵庫県立舞子高等学校

1995年 阪神・淡路大震災

2000年 舞子高校環境防災科設置の準備

2002年 舞子高校環境防災科スタート 12年間科長

2017年 退職して、防災教育を広げる活動に専念

舞子高校環境防災科

国内活動・会議など

海外活動

- 授業を中心とした防災の学び
- ネパール交流
- 災害ボランティアと被災地交流
台風23号・中越地震
兵庫県西・北部豪雨災害
能登半島地震・東日本大震災

- 文科省「防災教育支援のための懇談会」
「東日本大震災を受けた防災教育・防災支援に関する有識者会議」
- 兵庫県教育委員会「EARTH運営委員会」
- 各地教育委員会・危機管理・大学・NPO・地域などでの講演、シンポジウム
- 東日本大震災支援 (NPO等)
- 熊本地震支援 (NPO等)
- ジュニアリーダー育成講座 (全国・兵庫県)
- 日本教職員組合・兵庫県教職員組合共同研究者
- 「防災教育チャレンジプラン」
- 「1.17防災未来賞ぼうさい甲子園」
- 日本教員教育学会特別課題研究
- 防災教育学会

- ネパール (舞子高校交流・チームひょうご 防災教育支援)
- 中国四川省大地震 (舞子高校・JICA・深圳壹基金)
- インド (JICE)
- 台湾 (雲林工科大学・個人)
- スリランカ (日教組支援・舞子高校交流・JICA草の根)
- インドネシア (日教組支援・個人)
- フィリピン (個人・神戸学院大学)
- モンゴル (ADRC)
- トルコ (JICA)
- 防災教育制度の向上 (JICA訪日研修)
- 遠隔でのセミナー
台湾・ブルネイ・メキシコ・JICA・プラン
インターナショナルなど

- 大学での非常勤講師等
- セミナー参加
- 講演活動
- NPOとの連携
- JICA等の国際活動
- ネット記事・本の執筆
- 教材開発

1. そもそも、防災教育とは？

「防災教育」という言葉に対するイメージが人それぞれで違っている。

Supporterとなるための防災教育

Survivorとなるための防災教育

防災教育は・・・

避難所で子どもたちが
できる支援って何だろう！

避難訓練をしよう！

地域の助け合いが
大切だ！

自然の怖さだけではなく
自然の恵みも教えたい。

自分の得意技で人を
支援できるかも？

市民力・人間力をはぐくむ防災教育

2. 「防災教育にとりくめない・とりくまない理由」

1 自分は災害にあわない

2 時間がとれない

3 何をどう教えて良いかわからない

4 進路保障につながらない

5 自分には災害体験がない

これらの理由はすべて解決されている。
でも、防災教育にとりくまないのはなぜか。

3. 防災教育とは？

(1) 内閣府ホームページ

内閣府ホーム > 内閣府の政策 > 防災情報のページ > 広報・啓発活動 > 広報誌「ぼうさい」 > 平成21年度 広報誌「ぼうさい」-防災情報のページ > 特集 防災教育

https://www.bousai.go.jp/kohou/kouhoubousai/h21/01/special_01.html#:~:text=%E9%98%B2%E7%81%BD%E6%95%99%E8%82%B2%E3%81%AF%E3%80%81%E7%A9%B6%E6%A5%B5,%E3%81%A8%E3%81%8C%E5%BF%85%E8%A6%81%E3%81%A8%E3%81%AA%E3%82%8B%E3%80%82

防災教育とは

防災教育は、究極的には**命を守ることを学ぶ**ことであるが、そのためには、**災害発生の理屈**を知ること、**社会と地域の実態**を知ること、**備え方**を学ぶこと、災害発生時の対処の仕方を学ぶこと、そして、それを**実践に移す**ことが必要となる。

文部科学省では、学校における防災教育のねらいを、一つ目は「災害時における**危険を認識**し、日常的な**備え**を行うとともに、状況に応じて、**的確な判断**の下に、**自らの安全を確保するための行動**ができるようにする」、二つ目は「災害発生時及び事後に、進んで**他の人々や集団、地域の安全に役立つ**ことができるようにする」、三つ目は「**自然災害の発生メカニズム**をはじめとして、**地域の自然環境、災害や防災についての基礎的・基本的事項**を理解できるようにする」としている。

(2) 文部科学省ホームページ

トップ > 政策・審議会 > 審議会情報 > 調査研究協力者会議等（研究開発） > 防災教育支援に関する懇談会 > 防災教育支援に関する懇談会（第6回） 配付資料 > 資料
6-3 防災教育支援に関する懇談会 中間とりまとめ（案） > 3. 防災教育支援の基本的考え方

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/kaihatu/006/shiryo/attach/1367194.htm

防災教育の目的

防災教育は、学校や地域のみならず、様々な機会・場を通じて、

1. それぞれが暮らす地域の、**災害・社会の特性**や防災科学技術等についての**知識**を備え、減災のために**事前に必要な準備**をする能力、
2. 自然災害から**身を守り、被災した場合でもその後の生活を乗り切る**能力、
3. 進んで**他の人々や地域の安全を支える**ことができる能力、
4. 災害からの**復興を成し遂げ、安全・安心な社会を構築する**能力、

といった「**生きる力**」を涵養し、**能動的に防災**に対応することのできる人材を育成するために行われるものである。

(3) 学校防災のための参考資料 「『生きる力』を育む防災教育の展開」(2013年3月)

トップ > 教育 > 学校保健、学校安全、性犯罪・性暴力対策、食育 > 学校安全 > 学校安全<刊行物>

https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/__icsFiles/afieldfile/2018/12/25/1334780_01.pdf 防災教育のねらい

防災教育は様々な危険から児童生徒等の安全を確保するために行われる**安全教育の一部**をなすものである。防災教育のねらいは、「『生きる力』をはぐくむ**学校での安全教育**」(文科省、2010)に示した安全教育の目標に準じて、次のような3つにまとめられる。

- ア **自然災害等の現状、原因及び減災等について理解**を深め、現在及び将来に直面する災害に対して、**的確な思考・判断に基づく適切な意志決定や行動選択**ができるようにする。
- イ 地震、台風の発生等に伴う**危険を理解・予測し、自らの安全を確保するための行動**ができるようにするとともに、**日常的な備え**ができるようにする。
- ウ 自他の**生命を尊重し、安全で安心な社会づくりの重要性を認識して、学校、家庭及び地域社会の安全活動に進んで参加・協力し、貢献**できるようにする。

(4) 「新たな防災教育」から「兵庫の防災教育」へ

兵庫県教育委員会「防災教育検討委員会」 『兵庫の教育の復興に向けて』 1995年10月

「兵庫の防災教育」の目標と副読本「明日に生きる」の柱

1. 災害時における学校が果たす役割と

防災機能の強化

- (1) 学校施設の防災機能の充実
- (2) 災害時における学校の果たす役割
- (3) 学校教育機能の回復

2. 学校における防災教育の充実

- (1) 学校防災体制の整備・充実
- (2) 新たな防災教育の推進
- (3) 震災体験を生かした教育の推進
- (4) ボランティア教育の推進

3. 心の健康管理

- (1) 心のケアの充実
- (2) 専門機関等との連携システムの確立
- (3) 指導力・実践力の向上
- (4) 家庭・地域社会との連携の強化

知：科学的な理解を深める	技：かけがえのない生命を守る	心：人間としての在り方生き方を考える
災害の歴史と防災対策を理解し、自然環境、社会環境と防災との関係や自然災害の種類とメカニズム等を科学的に理解する。	建物の耐震補強や家具の固定、災害発生時の身の守り方、応急措置、心肺蘇生法、ストレスへの対応等の技術・技能を身に付ける。	生命の尊重や他者への思いやり、ふれあいを大切にする心、ボランティアに参加する心、社会に貢献する心等を育成する。
災害について知る		生き方を考える
自分の身は自分で守る		
共に生きる		
心をケアする		
公の助けを得る		

副読本の柱

(5) 教育復興とは

+

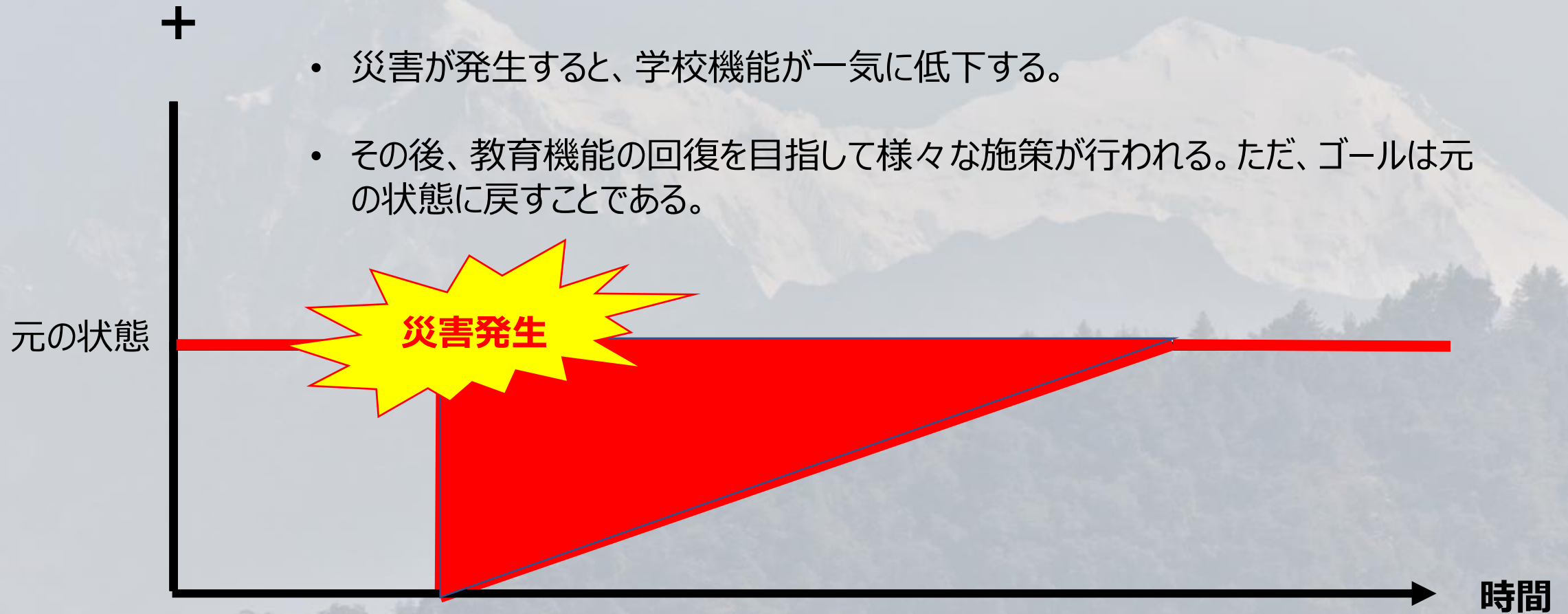
- 災害が発生していないので、日常の学校機能が同レベルで継続される。
- 教育の質の向上にとりくみながら、少しずつ右肩上がりの教育向上を目指す。

元の状態

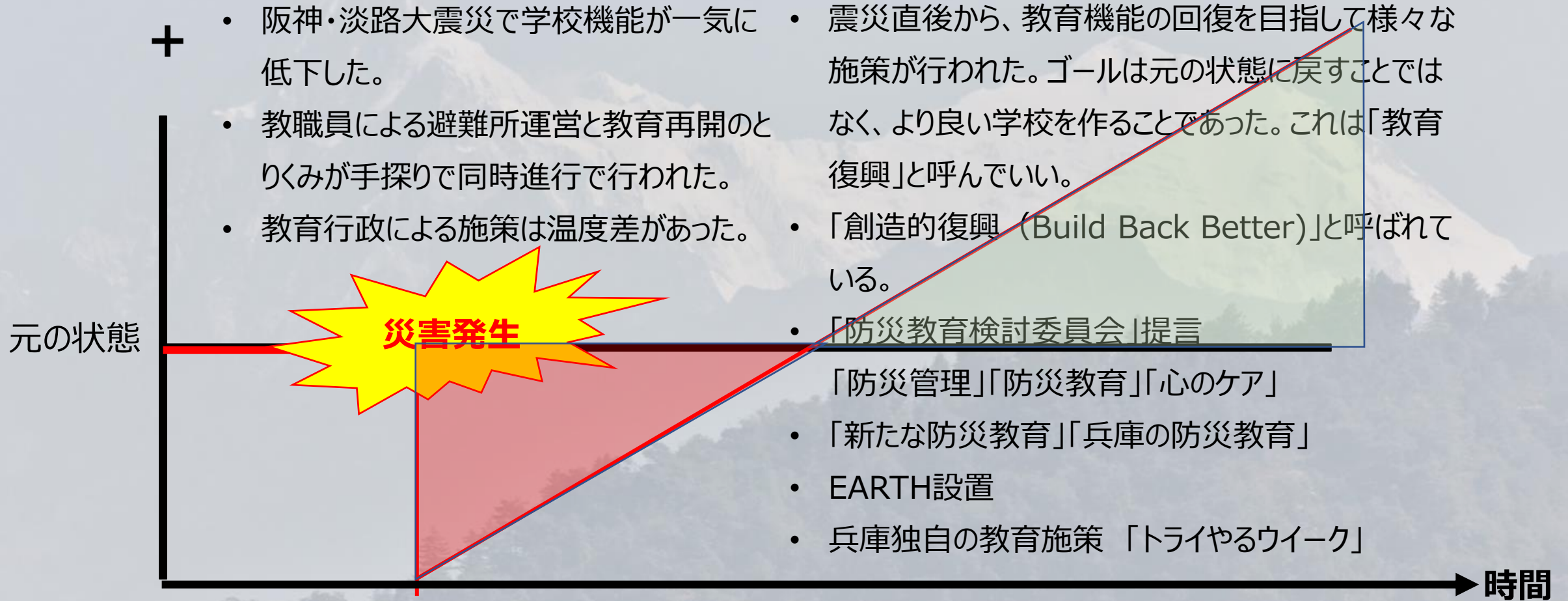
時間

-

災害後の学校の回復のモデル① 備えなし、防災教育なし、復旧のみ



災害後の学校の回復のモデル② 阪神・淡路大震災後の兵庫の教育



(6) まとめと・・・

目的

災害を生き抜く「知識と技能」、「理解力・判断力・表現力」を身に着ける

⇒ 防災教育のミニマムエッセンシャルズ・**狭義の防災教育**

いのちの大切さ・社会への参画と貢献・生きる力・「学びに向かう力・人間性等」を身に着ける

⇒ 防災教育の広がり・**広義の防災教育**

方法

災害を生き抜く方法：社会の理解・ハザードの理解・災害への備え・災害時の適切な行動

いのちの大切さ・社会への参画と貢献・生きる力を身に着ける方法：**書かれていない**

- **学校の教育目標、カリキュラムを念頭において、最低限、狭義の防災教育を実施するか広義の防災教育にまで広げていくか**
- **広義の防災教育にとりくむ方法は曖昧だが、そのおかげで広がりを持つ可能性がある**

4. いくつかの防災教育

(1) 「被災地」「未災地」の視点で考える3つの防災教育

被災地

自分の命を守る

助かった直後に周りの人を助ける

助かったときに被災者を支援する

未災地

被災地に駆けつけて支援する

遠くの被災者を支援する

日常的に社会に参画する

Survivorとなるための防災教育・学習

ハザードを知る

耐震 家具の固定 水・食料の確保
適切な避難 危機回避のための判断力 など

Supporterとなるための防災教育・学習

救出・救助 搬送 けがの手当て 心肺蘇生 AED
炊き出し 避難所運営 家の片付け
話し相手 遊び相手 心のケア
救援物資 募金 激励
防災教育 など

市民力を育む防災教育・学習

人を助けようという気持ち 社会に貢献する心
臨機応変の判断力
福祉・環境など日常のボランティア活動
社会・組織への参画 など

(2) 広義の防災教育

多様な防災教育

- ・ 命、助け合い、思いやり
- ・ 心のケア
- ・ 復興のまちづくり
- ・ 海と向き合う
- ・ 地域を知る
- ・ 要援護者の支援
- ・ ボランティア
- ・ 「得意技」と防災
- ・ 「夢と防災」
- ・ ……



(3) 防災・防災教育を英語で言うと

① JICAなどでの英語での防災教育研修

Disaster Prevention (防災) ではなくDisaster Reduction (減災) が使われる。

Disaster Risk Reduction (DRR、災害リスクの軽減) も頻用される。

② riskとは？

1. the possibility that something bad, unpleasant, or dangerous may happen
2. an action that might have bad results
3. something or someone that is likely to cause harm or danger

(オンライン版ロングマン英英辞典)

DRR Education は狭義の防災教育をさす。Disaster Education と、ぼやかして使うこともある

③ 生きる力は英語で何という？

survive **狭義の防災教育** live a better life **広義の防災教育**

市民教育 人間教育
Human Centered Education

学習者中心の学習
Learners-Centered Learning

災害に根差した学習
Disaster Rooted Learning

災害に根差した教育
Disaster Rooted Education

災害に関する学習
Disaster Related Learning

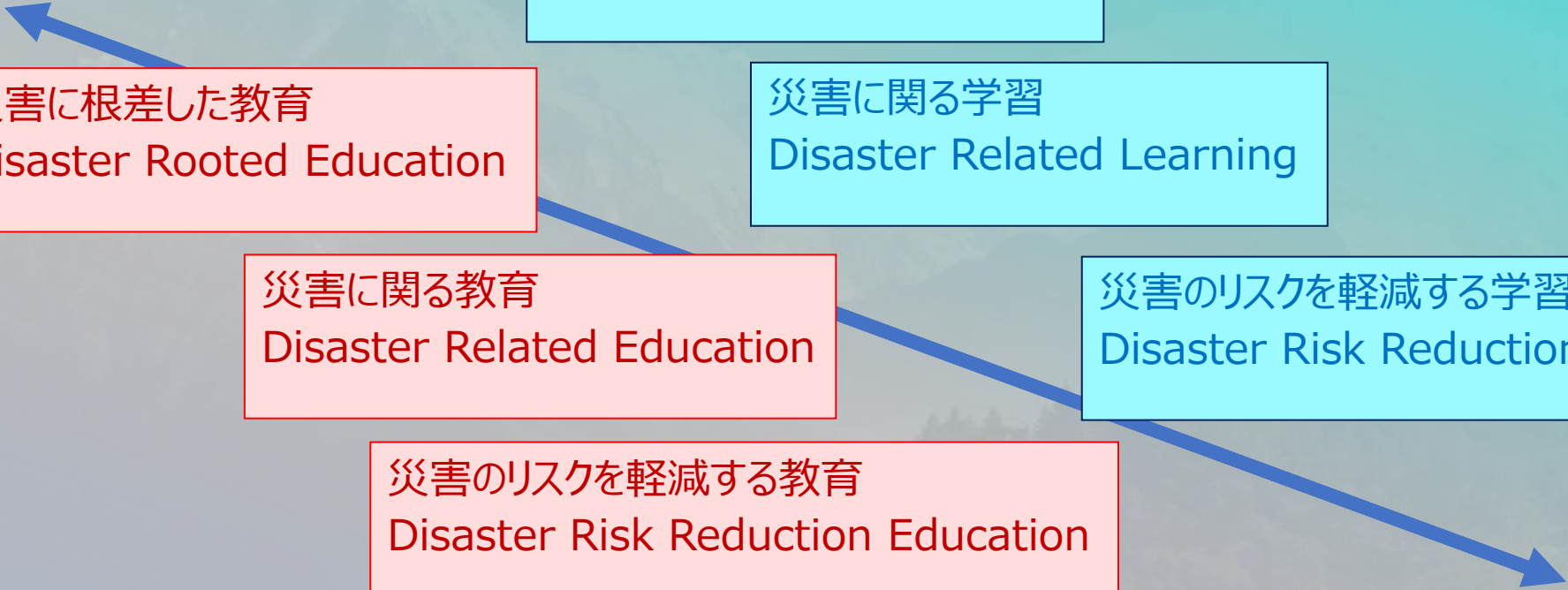
災害に関する教育
Disaster Related Education

災害のリスクを軽減する学習
Disaster Risk Reduction Learning

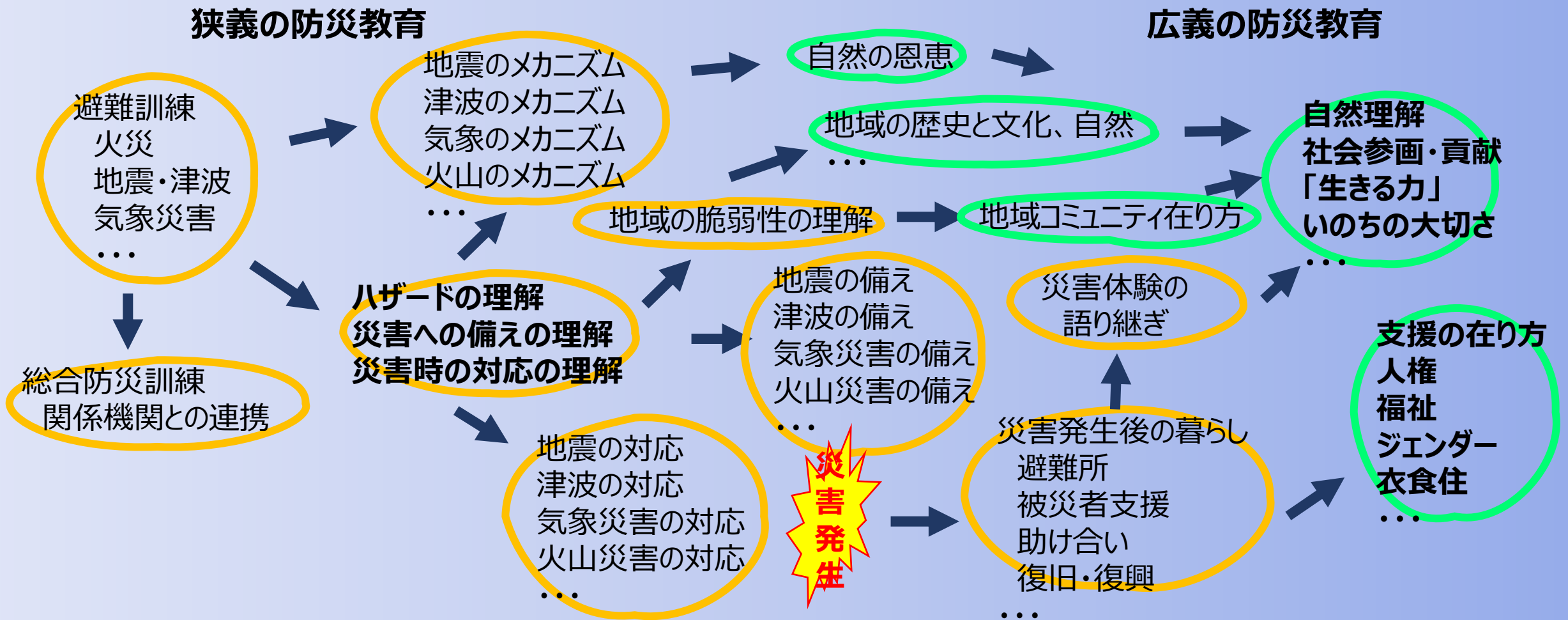
災害のリスクを軽減する教育
Disaster Risk Reduction Education

教育者中心の教育
Educators- Centered Education

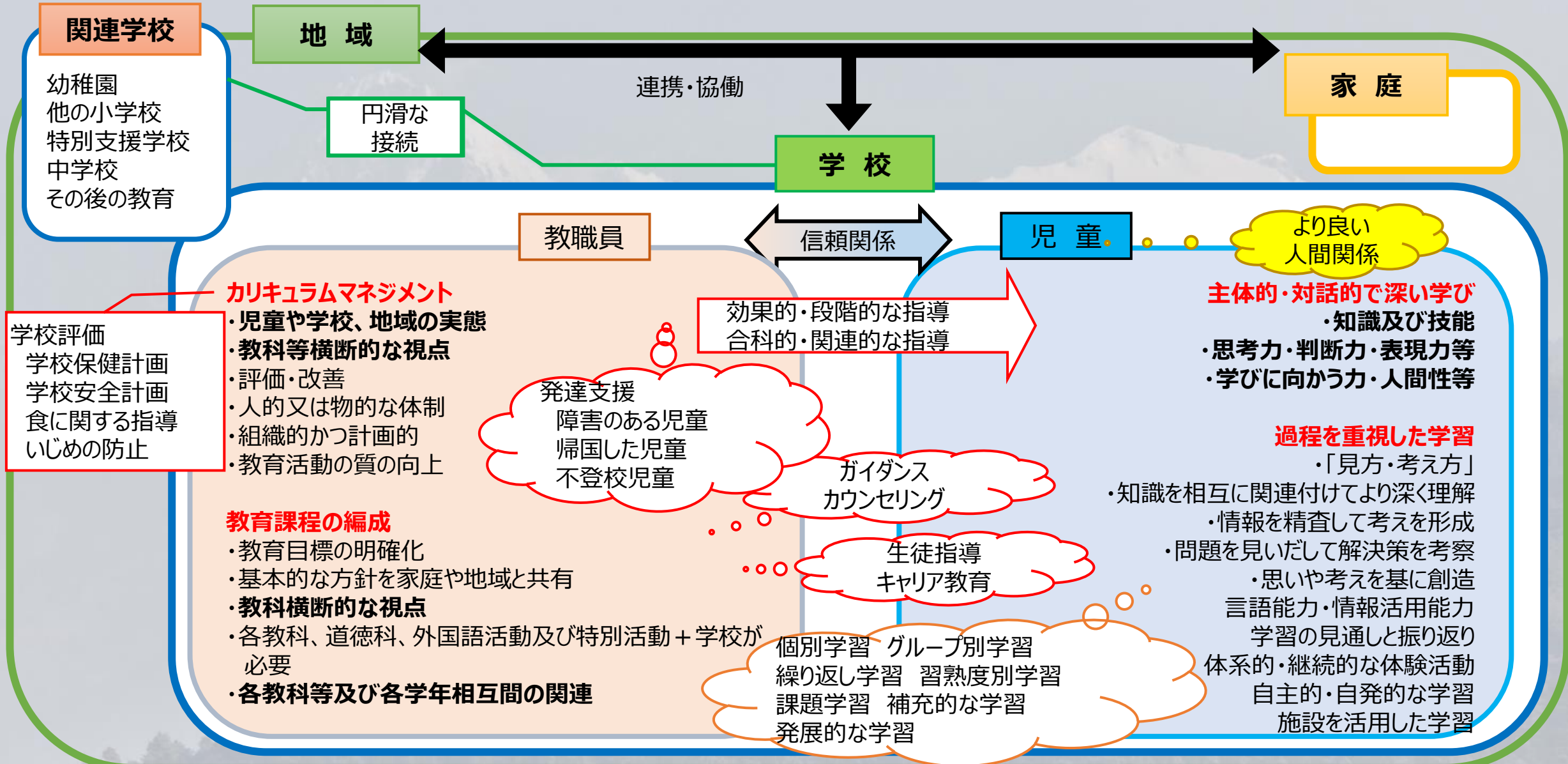
災害対応教育
Disaster Management Centered Education



(4) 狭義の防災教育から広義の防災教育へ



(1) 小学校学習指導要領



(小学校の学習指導要領を参考に諏訪が作成)

(2) 主体的、対話的で深い学び

主体的な学び	学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連づけながら、見通しを持って粘り強く取組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。
対話的な学び	子供同士の協働、教師や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自らの考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。
深い学び	習得・活用・探究の見通しの中で、教科等の特質に応じた見方や考え方を働かせて思考・判断・表現し、学習内容の深い理解につなげる「深い学び」が実現できているか。

(3) 「生きる力」と防災教育

未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力」

- * 知識・技能を自らの生活の中や生き方の関連で使いこなしていく中で育てていく
- * 着実に太くなっていく

情報を集めて、考え、相談し、判断し、行動する力
(例) グループワークで課題を解決する

「生きる力」の意味を考えたい

学力の樹

「学力を育てる」(志水宏吉・大阪大学大学院人間科学研究科 岩波新書 2005)を参考に諏訪が作成

葉

実際の社会や生活で生きて働く「知識及び技能」

- * 総体として大きな力を発揮
- * 木の命が続く限り
絶え間なく更新されていく

ハザード、備え、対応の知識と技能

- (例) 地震はなぜ起こる？
- 地震にはどう備える？
- 地震が発生したらどう身を守る？
- 地震の後どう助け合って生きていく？

幹

学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」

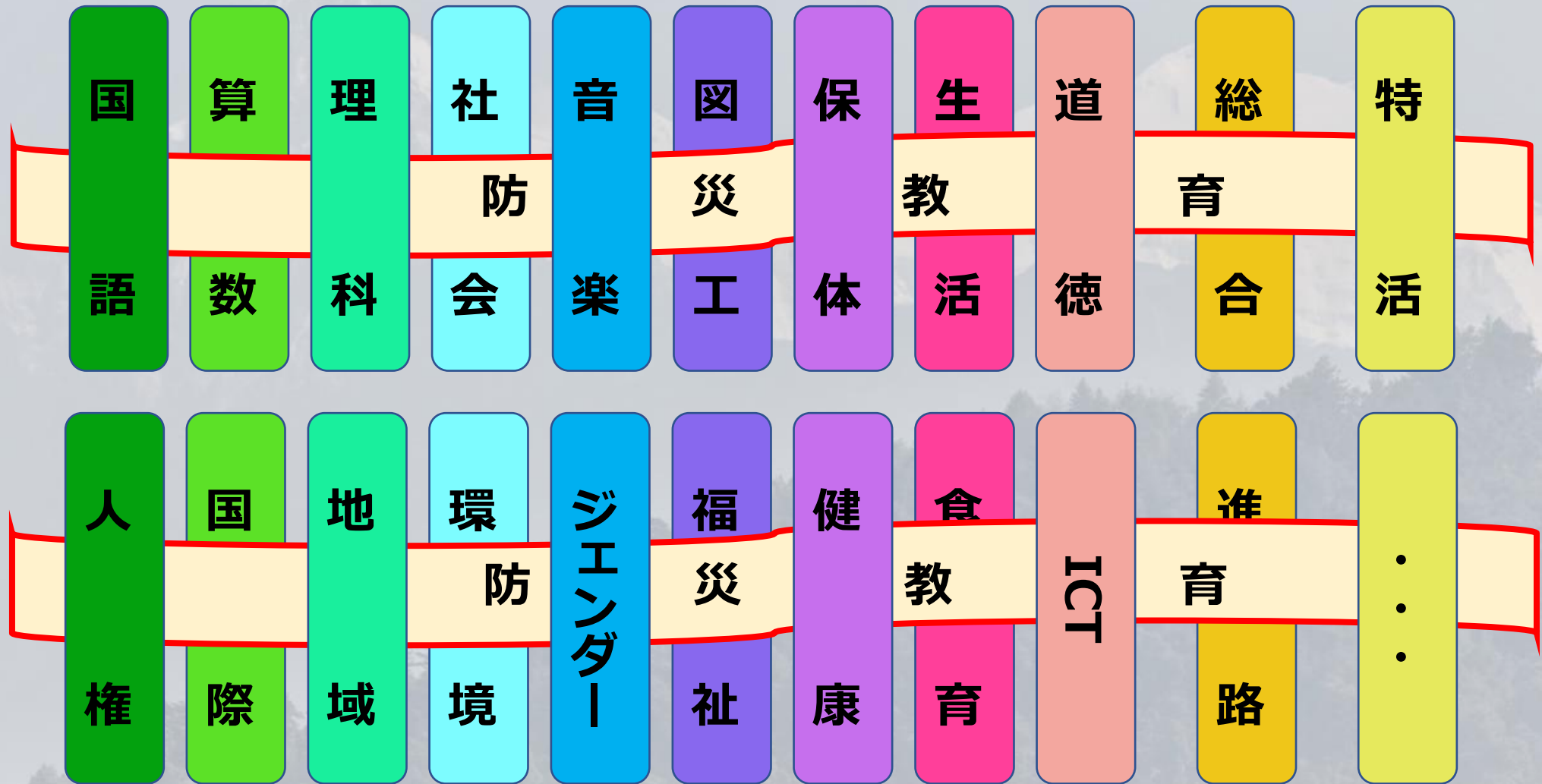
- * 地面に食い込み自らを支える
- * アイデンティティ

根

自然・社会・防災を知る

- (例) 自然のいいところと怖いところ
- 社会でどう生きていくか
- なぜ防災が必要か

(4) 横断的な学習：防災教育は教科・領域を横断している



(5) 学習指導要領と防災教育

「自然災害」「災害」「事故」「安全」などの表現が用いられている

- 教科書に記述が載る
- 無意識にでも「災害」に触れられる
- 実際の災害と結びつけて学ばせる工夫が必要

表現はないが防災教育と関連が深そう

- 関連性に着目して授業をつくる
- 教員が災害と防災を知っておく必要
- ひとりではなく複数の教職員でアイデアを出す

一見関連なさそうだが、アイデア次第で防災教育が実施できる

- 教科の内容と災害をよく知っておく
- 思い切ったアイデアを出す
- 授業づくりを楽しみと思う心のゆとりが必要

(6) 学習指導要領と防災教育:「防災」「災害」「安全」などの記述がある

教科	内 容	教科	内 容
社 会	3年 「地域の安全」 4年 「自然災害・今後想定される自然災害・地域の自然災害」 5年 「自然災害・対策や事業・国土の保全・防災対策」 「地震災害、津波災害、風水害、火山災害、雪害」 6年 「自然災害からの復旧・復興」	体 育 (保 健)	5年6年 「けがの防止・交通事故・身の回りの生活の危険」 「危険の予測や回避の方法」
理 科	5年 「流れる水の働きと土地の変化」「天気の変化」 *「自然災害についても触れること」 6年 「土地の作りと変化」 *「土地は、火山の噴火や地震によって変化すること」 *「自然災害についても触れること」	特別の教科 道徳	全学年 「安全」
生 活	1年2年 「通学路の様子やその安全・安全な登下校」 「安全に生活・安全に気を付けて」	特別活動 学級活動	全学年 「健康安全」「健康で安全な生活態度」「事件や事故、災害等から身を守り安全に行動」
家 庭	5年6年 「健康・快適・安全で豊かな食生活、衣生活、住生活」	特別活動 学校行事	全学年 「健康安全」 「事件や事故、災害等から身を守る安全な行動」

(7) 学習指導要領と防災教育:記述はないが関連がありそう

教科	内 容
社 会	<ul style="list-style-type: none">• 身近な地域や市町村 都道府県• ライフライン 国土の様子や国民生活 地形や気候 国土の自然や自然条件• 聞き取り調査 地図 地図帳・地球儀・各種資料
理 科	<ul style="list-style-type: none">• 雨水の行方と地面の様子 天気の様子
家 庭	<ul style="list-style-type: none">• 栄養のバランス 布を用いた製作 住まいの整理・整頓
道 徳	<ul style="list-style-type: none">• 希望と勇気、努力と強い意志 親切、思いやり 生命の尊さ・感動、畏敬の念
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none">• 日常生活とのかかわりを重視 探究課題、探究課題の解決

(8) 学習指導要領と防災教育:アイデア次第で面白い防災教育ができる

教科	内 容
国 語	<ul style="list-style-type: none">読書の題材に災害について書かれたものを用いる。読後は内容について話し合ったり、感想文を書いたりする。
算 数	<ul style="list-style-type: none">非常持ち出し袋に入れるアイテムの個数を数える。津波の速度計算をする。非常持ち出し袋に入れるアイテムを考える授業と算数を組み合わせる。アイテムと値段が書いたカードを使い、一定金額で必要なものを買う。
理 科	<ul style="list-style-type: none">てこの学習と下敷きになった被災者の救助
音 楽	<ul style="list-style-type: none">被災地で生まれた歌の背景を学び、合唱、合奏する。
図画工作	<ul style="list-style-type: none">牛乳パックを使って耐震技術を考え、発表する。実際の災害時のストーリーを聞かせ、描かせる
体 育	<ul style="list-style-type: none">エコノミークラス症候群と運動

(9) 学習指導要領と防災教育:教科でとりくむ実践事例

教科	内 容
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ・ 被災者の体験談を読む（話を聞く） ・ 感想文・詩を書く ・ 架空の被災物語を書く ・ 未来の被災後の復興物語を書く
社 会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地図を使ってDIGをする ・ ライフラインの被害を調べる ・ 防災関係の機関・組織を調べる ・ 地域の過去の災害を調べる ・ 調べたものを壁新聞にして発表・掲示する
算 数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 非常持ち出し袋に入れる物品の数を数える・個数と値段を計算する ・ 被災状況の表をグラフ化する
理 科	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気象を学ぶ ・ 雨水の流れと地面の変化を学ぶ ・ 地震・火山のメカニズムを学ぶ
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ・ エコノミー症候群と避難所生活を知り、有効な体操・ストレッチを学ぶ ・ 災害時のこころの変化とストレスマネジメントを学ぶ
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災ポスターを描く ・ 耐震の建物の模型を作る
家 庭	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部屋の整理・整頓と家具の固定などの備えを関連付けて学ぶ ・ 非常食の在り方（高齢者、乳幼児、アレルギー）を考える ・ 防災頭巾（3 way）を作る

(10) カリキュラム・マネジメント

(文部科学省資料より [20200128_mxt_kouhou02_02.pdf](#))

「社会に開かれた教育課程」の理念の実現に向けて、学校教育に関わる様々な取組を、教育課程を中心に据えながら、組織的かつ計画的に実施し、教育活動の質の向上につなげていくこと

地域の「環境」、地域・家庭の「人」、学校の「子供」がもとにある

カリキュラム・マネジメントの3つの側面

- 学校教育の効果を常に検証して改善する
- 教員が連携し、複数の教科等の連携を図りながら授業をつくる
- 地域と連携し、よりよい学校教育を目指す

(11) 2つのカリキュラム・マネジメント

プチ・カリキュラム・マネジメント「プチ・カリマネ」

- ・ 自分の教科・科目で、1時間だけ防災教育に挑戦してみる
- ・ 結果を職員室の近くの人に（楽しそうに）話す
- ・ 一緒にやろうという人を少しずつ増やしていく
- ・ 災害の記念日が近づいたら、「ちょっとみんなでやってみようよ」と（楽しそうに）呼び掛ける

カリキュラムを真似する「カリ・真似」

- ・ 優れた実践を探す
- ・ 学校や地域の実情、想定災害などを念頭において、ちょっとだけアレンジする

7. まとめと・・・

防災教育は災害から命を守る教育である・・・**狭義の防災教育**

防災教育は社会のあらゆる事柄と関係している・・・**広義の防災教育**

防災教育はどの**教科、領域**でもできる

教える側の**発想力**が試されている

プチ・カリキュラム・マネジメントでアイデアを出し合おう・・・「**プチ・カリマネ**」と「**プチ・カリ・真似**」

防災教育は「**生きる力**」を育てる

防災教育の**実践**は**蓄積**されている

優れた実践を**模倣**して、**地域化**して、**実践**しよう

狭義の防災教育は命を守る、**広義の防災教育**は生きる力をはぐくむ

8. どうすればこどもたちが生き生きと学ぶのだろう？

避難訓練	決められた時間に警報が鳴り、決められた経路をたどって「おはしも」で避難させる。最後に先生が講評する。	こどもが避難訓練を企画する。最後にこども同士の話し合いで課題を考える。
防災訓練	消防などの専門機関や防災士の協力を得ていくつかの体験ブースを用意する。こどもたちに順次ブースを回らせ体験させる。	6年生が防災を学び、体験ブースを準備する。低学年のこどもたちがブースを回って6年生の指導の下、順次体験していく。
ハザードマップ	見つけるべき課題を事前に学習させ、まち歩きを実施する。こどもたちが発見した危険箇所をマップに落とし込ませ、地図を完成させる。	何を見つけるかをこどもたちが決める。地域住民や保護者も一緒にまちを歩く。地域住民、保護者向けに発表会を開く。
非常持ち出し袋	災害時の避難で必要なもののリストを見せ、一つずつなぜ必要かを説明する（考えさせる）。	1人1アイテムをあてがい、なぜそれを持ち出し袋に入れるべきかを考えさせて発表させる。高齢者のいる家族、乳幼児のいる家族、病人のいる家族などを設定し、どんなアイテムを用意しておくべきかをグループで考えさせる。

災害体験	語り部を招きこどもたちに体験を聞かせる。その後、感想文を書かせる。	体験談の後、グループで感想を話し合う。その後、語り部へ手紙を書く。体験談を絵で表現する。
備え	災害種別ごとに被害の様子を教え、そのような被害を減らすための備えの在り方を教える。	災害種別ごとに被害の様子を教え、そうなった理由を考えさせる。さらに、そうならないための備えを考えさせる。
地震時の対応	地震の揺れから身を守るためには、「机の下に隠れる」「ダンゴムシのポーズ」を教え、実際に行動させる。	今いる部屋の中で危険だと思う場所に「危険シール」を張らせ、その理由を説明させる。地震発生の場合とともに、一斉に安全だと思う場所で安全なポーズをとらせる。そこを選んだ理由を発表させる。
防災と職業夢と防災	防災にかかわる職業について調べ学習をさせ、発表させる。	自分の将来の夢と防災の関係を考えさせ、発表させる。
防災ゲーム	DIG、HUG、クロスロードなどの演習型、思考型のゲームやネット上のe-learning教材を体験させる。	ゲームやe-learningを体験させた後で、そのゲームの良さ、改良点などを話し合わせる。

ワークショップ① 明日災害が発生！ 今日、何をする？

【目的】

- 災害の一日前に自分を置くことで、災害への備えの大切さに気付かせる。
- グループで話し合うことで、多様な意見に触れ、自分の意見を修正する姿勢を身につける。

【準備物】

付箋 記録用紙 筆記用具

1 明日、災害が発生する。災害を決める。

地震 最大震度の大地震が明日発生 津波発生

台風 強風・豪雨の台風が明日上陸

2 今日何をするかを考える。

自分が今日したいことをできるだけたくさん付箋に書き出す。

3 グループで話し合う。

5人程度のグループを作り、今日することを話し合う。

たくさん意見が出るが、それらを10個に絞り込む。

1番、2番・・・9番、10番と順番に並べる。

4 発表して全体で共有する。

時間がなければ、1番 2番 3番と10番だけでもいい。

上位は誰もが必要だと考える行動、下位は面白い行動の場合が多い。

5 こどもたちに質問する。

「ここで話し合った10個の活動をすべて行っている人は手を挙げてください。」
二人を比較する。

「知識をいっぱい持っていて何もしない人」

「知識がなくて何もできない人」

防災の知識を持っていても、行動しなければ意味がないことに気づかせる。

6 今日からの1週間でできることに○をつけさせる。

できることに○をつけることで、目的意識をもって授業を終わることができる。

ワークショップ② 時系列で災害対応を考えよう。

目的

時系列で災害後に発生する出来事とその対応を考え、わかることと分からないことを明確にする。わからないことをその後の研修で「潰していく」ことで雑賀への対応力を高める。また、話し合いの中で備えの大切さに気付き実行していく。

準備物

模造紙：各グループに1枚

サインペン・マーカー：各グループに1セット




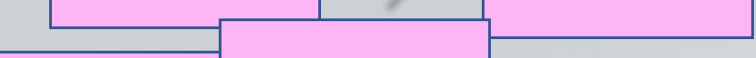
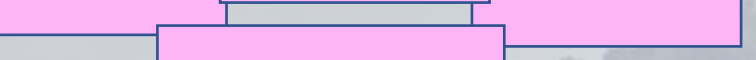




付箋：ピンク、水色か薄緑色 それぞれ一人に10枚はいきわたるように

災害発生

- ① 発生日時、曜日、時間、天気が記述される。

時間	起こりうる出来事	課題の解決方法
直後		
1時間後		
2時間後		
3時間後		
半日後		
• • • • •		
• • • • •		
• • • • •		

災害発生

時間	起こりうる出来事
直後	
1時間後	
2時間後	
3時間後	
半日後	
.....	
.....	
.....	
	

- ② 起こりうることを付箋に書き出す。相談はしない。
- ③ 書き終わると付箋を貼り出しながら、話し合う。
- ④ すべて貼り終わると、時系列を無視してどんなことが起こるかを範疇に分けて簡単な表現で記述する。

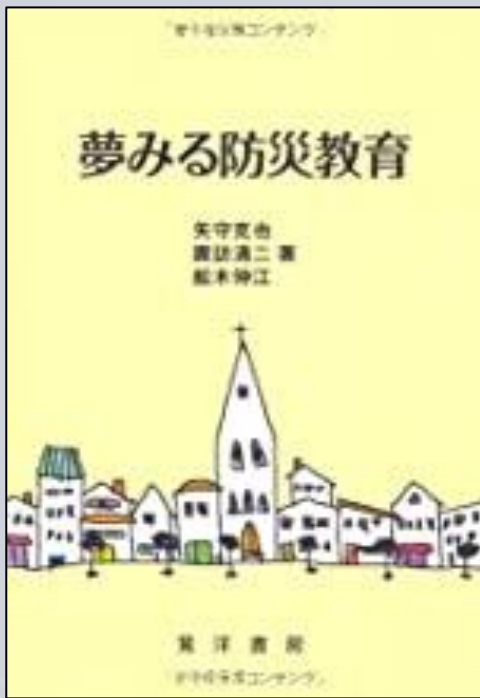
書き終わるまでは絶対に相談しない。

災害発生

⑤ 付箋に、解決策を書き出す。相談はしない。書き終わると付箋を貼り出し、解決策を話し合う。解決策は二つある。「備え」とその時の「対応」。

時間	起こりうる出来事	課題の解決方法
直後		
1時間後		
2時間後		
3時間後		
半日後		
.....		
.....		
.....		

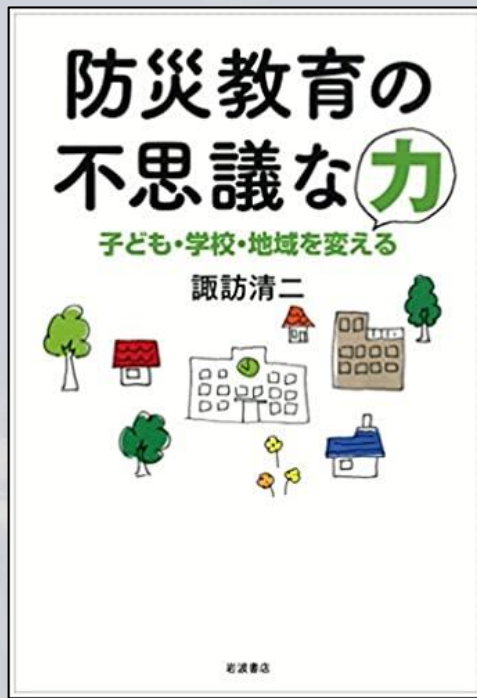
書き終わるまでは絶対に相談しない。



2007年 晃洋書房



2011年 岩波書店



2015年 岩波書店



2020年 明石SUC



2022年 太田出版



諏訪メールアドレス
seijisuwa@yahoo.co.jp

防災学習教材 明石SUC